

2016年5月8日

福音書からのメッセージ

また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。

(ヨハネによる福音書 17 章 20 節)

今週、桃山基督教会では「親子礼拝」をおこないました。毎年親子礼拝と子ども祝福式(11月第4週)では、子ども向けのお話をしています。

今年はある男の子の話をしました。その子はいつも寝る前、お母さんにお祈りをしてもらっていました。「神さまと一緒にいてくださいますように」。でも男の子はそのお祈りがちょっぴり苦手だったのですね。「神さまなんかいなくても、毎日楽しいし、神さまに会ったことないし」、そう思っていたからです。

そんなある日、男の子は冒険に出掛けます。裏山の池を目指して出発したのですが、疲れてしまい、お腹も空いて帰ろうとしました。しかし足を滑らせて、山の斜面を滑り落ちてしまいます。そして帰り道が分からなくなってしまいました。

どうしようもなくなって、男の子はうずくまってしまいます。でもそんな彼のところに、お兄さんがやってきておにぎりを、お姉さんがやってきて毛布を、そしておじいさんがやって来てランタンを持ってきてくれ、そのおじいさんは手を引いてお母さんの元まで連れて行ってくれました。そしてみんな、「大丈夫だよ、いつも一緒にいるよ」と言いながら、いつの間にかいなくなってしまいました。

男の子はお母さんに抱きつきながら、道に迷ったこと、そして三人の人に出会ったことを話しました。するとお母さんは、「その三人はきっと神さまよ」と男の子に言いました。お母さんは男の子がいなくなって、



必死でお祈りしていたそうです。すると心の中

に「大丈夫だよ」という声が何度も聞こえ、男の子のところまで、神さまが導いてくれたというのです。

男の子は思いました。「神さまと一緒にいてくれる」ということは、とっても嬉しいことなのだなあ。そして、いつもそのお祈りをしてくれているお母さんに、心からありがとうと言うことができました。

今日の福音書には、十字架につけられる直前にお弟子さんたちのためにお祈りをするイエス様が出てきます。イエス様はご自分がお弟子さんたちと一緒にいられなくなることを、よくご存じでした。だからこそ神さまに、「いつも一緒にいてください」と必死でお祈りされたのです。

そのイエス様のお祈りは、わたしたちのためにもささげられています。わたしたちがお家の方に、そしてたくさんの人たちのお祈りによって支えられていることを覚えると同時に、いつもイエス様が祈って下さっていることに感謝しましょう。

次はわたしたちが祈る番です。今、とても苦しい思いを持っている人がいたら、その人のために祈りましょう。「神さまと一緒にいてくださいますように」と。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>